



日本分類学会連合のトピックス

第 17 回日本分類学会連合公開シンポジウム

日本分類学会連合第 17 回公開シンポジウム「分類学に関わる法律および新しい情報収集ツール」が以下の要領で開催されます。

日時 2018 年 1 月 6 日(土) 13:00~17:05

会場 国立科学博物館(上野本館)2階講堂

主催 日本分類学会連合

共催 国立科学博物館

開催趣旨

分類学は、もっとも古くからある生物学の分野で、様々な生物の認識・命名と体系化を目的の一つに発達してきました。分類学は、他の様々な生物学の基盤である一報、他の様々な分野の発達によって得られた情報がフィードバックされて分類体系が再考され、認識が改められ、体系が再編されるという流れを持っています。つまり、分類学は決して古くさい分野なのではなく、新しい分野に影響を受ける、“古くて新しい”分野なのです。今日、この分類学には新たな影響が加わりつつあります。今世紀になって急速に発達してきた巨大なデータベース、情報科学を背景に発達してきた新しい習慣、生物多様性条約を背景としてきた ABS (Access and Benefit Sharing) がその背景です。ABS, GRBio, GBIF, ORCID, DOI・・・いずれも細胞内の分子のようで取っつきにくい印象があるかもしれませんが、しかし、これらの規制や習慣は、分類学と無関係なものではなく、新しいツールとして上手に利用すれば、分類学をもっと広めていく契機になるものと思います。そこで、本シンポジウムは、これらの新しい規制や習慣について最新の情報を学び、新しい分類学を進める契機にしたいと思います。

細矢 剛 (国立科学博物館)

プログラム

- 13:00~13:10 開会あいさつ・趣旨説明
細矢剛：国立科学博物館
- 13:10~14:10 著作権制度の概要
齊藤瑛理子：文化庁 著作権課
- 14:10~14:40 ABS 関連実務事例に基づく海外遺伝資源へのアクセスと利用に関する支援活動
山崎健史・村上哲明・江口克之：
首都大学・東京
- 15:10~15:40 生物多様性情報発信に関わる新習慣 (GBIF/GRBio/CC ライセンス)
細矢剛：国立科学博物館
- 15:40~16:10 研究リソースに対する DOI 登録の可能性
住本研一：科学技術新興機構
- 16:10~16:40 ORCID の利用とオープンサイエンス
武田英明：国立情報学研究所

16:40~17:00 総合討論

17:00~17:05 終了挨拶

大塚攻：広島大学

会場へのアクセス

国立科学博物館のホームページをご覧ください。
<http://www.kahaku.go.jp/userguide/access/index.html>

特別寄稿

遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する指針 (平成 29 年財務省・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・環境省告示第 1 号) に対する首都大学東京 ABS 相談窓口の取り組み

山崎健史・江口克之・村上哲明
首都大学東京理工学研究所
首都大学東京 ABS 相談窓口 E-mail: mak-abs@tmu.ac.jp

日本は 2017 年 8 月 20 日に名古屋議定書の締約国となり、「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する指針 (平成 29 年財務省・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・環境省告示第 1 号)」(以下、「ABS 指針」と略す)が施行されることになった。それに先立ち、我々は AMED・ナショナルバイオリソースプロジェクト (28 医研開 第 4453 号；補助事業分担者・課題管理者：村上哲明) の支援を受けて、2017 年 4 月に「首都大学東京 ABS 相談窓口」を立ち上げ、国内研究機関による海外遺伝資源を利用した研究の支援を行ってきた。我々の支援活動は、基本的に多様性生物学分野 (非商用目的) における研究に限られるが、ここではその活動の概要を紹介する。

生物多様性条約および名古屋議定書の枠組みの中で、研究者が海外の野生生物 (= 遺伝資源) を利用して研究する場合、相手国 (遺伝資源の提供国) の共同研究者が所属する研究機関との間で共同研究に関する契約・協定 (MAT: Mutually Agreed Term) を交わすことと、相手国において遺伝資源の管理を所管する行政機関等から遺伝資源の利用に係る事前許可 (PIC: Prior Informed Consent) を取得することが求められていれる。首都大学東京 ABS 相談窓口では、この 2 点を国内研究者・研究機関がスムーズに行えるように、①支援ツールの作成、そして、それをもとに②研究者への直接支援に努めてきた。

まず、①支援ツールの作成として、MAT として機能する協定書 MoU/MoA の雛形を作成し、配布してきた。日

本の大学が海外の大学と締結する一般的な MoU や MoA は、学生・研究者間の交流をごく簡単に決められたものが多い。しかし、MAT としての機能を持たせるには、研究活動から生じる利益の種類と配分に言及しなければならない。多様性生物学分野の場合、研究活動から生じる利益配分として、共著での論文発表、共同研究に由来する成果有体物（標本など）の寄贈、研究に関する技術の移転、提供国の若手研究者の育成への貢献などが考えられる。ABS 指針の施行以前から、ここに挙げたような利益配分を個人的にあるいは組織的に行なってきた日本人研究者は多いと思われる。そうしたことを、今後は協定書の中に記述しておけば良いのである。また、研究から得られたデータの取り扱い、得られたデータを利用できる第三者機関の制限等への言及も必要である。MAT が含むべき望ましい条項は、ボン・ガイドラインや国立遺伝学研究所の ABS 学術対策チームのホームページ (http://nig-chizai.sakura.ne.jp/abs_tft/iva02/) を参照していただきたい。我々が作成した MoU/MoA 雛形は、それだけでは MAT として機能せず、個別に研究者同士が研究実施計画書 (PO: Plan of Operation) も交わすことで、MAT として機能する形式をとっている。つまり、MoU/MoA において MAT に必要な一般的な条項についての同意を交わし、PO で研究テーマごとの具体的な内容、取得する遺伝資源の種類や調査地域、研究実施体制や構成メンバーの同意を交わすという形式である。

次に、②研究者への直接支援としては、開設した相談窓口 email アドレスに問い合わせいただいた研究者に MAT 契約・PIC 取得への助言をし、必要があれば、依頼のあった国内研究機関の MoU/MoA 締結に対する現地（調査対象国での）サポートも行っている。生物多様性条約や名古屋議定書にて、遺伝資源利用国側は、遺伝資源提供国の ABS 関連法案遵守を強く求められているが、遵守すべき ABS 法案の整備が整っている提供国は、まだ多いとは言えない。また、提供国側の研究者も自国が名古屋議定書の締結国なのかどうか、自国の ABS 関連法案がどうなっているのか、理解していない場合が多い。そのため、従来の簡潔な MoU/MoA ではなく、少々内容の込み入った MoU/MoA 締結を依頼すると、面倒がられる場合もある。そのような食い違いを無くすために、私たち ABS 相談窓口の担当者が現地に赴き、名古屋議定書のもとで遺伝資源提供国と利用国がどのような契約を交わして、研究を行っていくことが国際的に求められているかを説明し、国内研究機関と現地研究機関の MoU/MoA 締結のサポートを行うこともある。

首都大学東京 ABS 相談窓口が国内研究機関への支援活動を行うためには、首都大学東京自体で、多くの国の研究機関と MAT 契約を結び、PIC を取得したうえで研究活動を実施し、その手順を事例集として取りまとめる必要がある。首都大学東京は今年度、台湾の 2 機関、中国の 1 機関との間で MoU/MoA を締結し、さらに台湾の別の 2 機関、マレーシアの 2 機関、タイの 1 機関との間でも MoU/MoA 文案の準備を進めている。

「ABS 指針」施行後は、留学生・研修生が出身国で取得した遺伝資源（日本側から見ると海外で取得された遺伝資源）を利用して日本国内の研究機関で研究する場合でも、MAT 契約・PIC 取得が原則必要となる点にご留意いただきたい。そのような事例では、受入側（日本側）の研究者との共同研究が前提となるためである。面倒に感じるかもしれないが、留学生・研修生受入は相手国の研究機関にとって非常に分かり易く、ニーズの高

い利益配分なので、MoA 締結はスムーズに進むことが予想される。相手国が研究対象地域として魅力的であるなら、むしろ MoA を結ぶ絶好のチャンスといえる。

名古屋議定書は 2017 年 8 月 20 日より日本において効力を生じ、ABS 指針に基づく海外遺伝資源へのアクセスと利用に対するモニタリングが開始されている。一方で、遺伝資源提供国側では、国により ABS 関連法案の整備状況に違いがあり、国内措置の整備の進んでいない国も多いため、当面は相手国の研究者・研究機関と綿密に情報交換をし、“最善と思われる対応”を取ることが必要となる。首都大学東京 ABS 相談窓口では、今後も、各国状況の調査、具体的事例の蓄積、それらに基づく支援活動に取り組んでいくつもりである。海外遺伝資源を用いて研究をするのに少しでも不安を感じておられる多様性生物学分野の研究者の方がいらっしゃれば、遠慮なく我々に相談していただきたい（首都大学東京 ABS 相談窓口 E-mail: mak-abs@tmu.ac.jp）。

日本分類学会連合加盟学会の 大会・シンポジウム情報

日本魚類学会

2018 年度日本魚類学会年会

会期：2018 年 10 月 5 日（金）～8 日（月）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区）

日本古生物学会

日本古生物学会第 167 回例会

会期：2018 年 2 月 2 日（金）～4 日（日）

会場：愛媛大学城北キャンパス（松山市）

日本昆虫学会

日本昆虫学会第 78 回大会

会期：2018 年 9 月 7 日（金）～10 日（月）

会場：名城大学（名古屋市）

日本シダ学会

日本シダ学会会合

（日本植物学会第 82 回大会の関連集会として）

会期：2018 年 9 月 14 日（金）

会場：広島国際会議場

日本植物分類学会

2017 年度日本植物分類学会講演会

会期：2017 年 12 月 16 日（土）

会場：大阪学院大学 2 号館（吹田市）

日本生物地理学会

日本生物地理学会第 73 回大会

会期：2018 年 4 月 7 日（土）～8 日（日）

会場：東京大学弥生講堂、フードサイエンス棟
中島ホール（文京区）

日本蘚苔類学会

日本蘚苔類学会第 47 回大会

会期：2018 年 8 月 27 日（月）～29 日（水）

会場：インテック大山研修センター（富山市）

日本藻類学会

日本藻類学会第 42 回大会

会期：2018 年 3 月 23 日（金）～25 日（日）

会場：東北大学農学研究科（仙台市）

日本動物分類学会

日本動物分類学会第 54 回大会
会期：2018 年 6 月 9 日（土）～10 日（日）
会場：鹿児島大学郡元キャンパス（鹿児島市）

(antist@tmu.ac.jp) に電子メールでお送りください。
皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げております。
(ニュースレター編集担当：江口克之)

日本プランクトン学会

2018 年度春季シンポジウム
会期：2018 年 3 月 25 日（日）（予定）
会場：東京海洋大学品川キャンパス（港区）

日本分類学会連合ニュースレター 第 30 号
2017 年 12 月 4 日発行

日本哺乳類学会

日本哺乳類学会 2018 年度大会
会期：2018 年 9 月 7 日（金）～10 日（月）
会場：信州大学伊那キャンパス（上伊那郡）

発行者 日本分類学会連合
事務局 〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館・筑波研究施設内
編集者 江口克之（首都大学東京大学院理工学研究科）

TAXA —— 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト
〈TAXA〉は、生物分類学に関する情報交換や討論をす
るためのメーリングリストで、生物分類学に関心をも
つすべての方に開放されています。〈TAXA〉メーリング
リストは下記の趣旨により開設されました。

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる
研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野
の普及と発展に寄与することを目的(規約第 2 条)」
として、2002 年 1 月 12 日に設立されました。現在、
分類学に関係の深い 27 の学会が加盟しています。そ
の後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展
開してきましたが、このたび新たな事業として「メ
ーリングリスト〈TAXA〉」を開設することになりまし
た。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほか
に、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討
論をするための場を提供することにあります。した
がって、このリストは本連合の加盟学会の会員ば
かりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放
されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本
連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰
でも自由に行えます。多くの方が登録くださいます
ようご案内申し上げます。

2003 年 12 月 21 日
日本分類学会連合
代表:加藤雅啓

〈TAXA〉は 2003 年 12 月 13 日に開設され、2003 年 12
月 24 日午後 5 時に稼動開始しました。2017 年 12 月 1
日の時点で 1084 名の会員が登録されています。入会を
希望される方は、

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、〈TAXA〉運営担当の三中信宏(taxa-admin
@ml.affrc.go.jp)までご連絡ください。

[編集後記]

分類連合ニュースレターでは随時加盟学会員の皆様
から広くご寄稿を募集しております。原稿は江口宛